

食品安全関係情報(8月31日～9月20日 収集分※)について

「食品安全関係情報」として食品安全委員会が収集したハザード毎の地域別情報件数の概要

(集計数は、今回/前回)

8月31日～9月20日収集件数 (合計147/150件) (前回 8月10日～8月30日)		国際機関 WHO・FAO等 (7/10件)	北米 米国 (15/16件)		カナダ (2/2件)	欧州 EU、EFSA (39/27件)		各国 (18/19件)	大洋州 FSANZ等 (4/6件)	アジア 中国 (7/12件)		各国 (8/10件)	中南米等 各国 (2/2件)	その他 報道、論文等も含む (45/46件)
化学物質 (56/45件)	化学物質・汚染物質 (11件)	1	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	5
	食品添加物 (5)	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	
	農薬 (34)	0	4	0	26	1	1	0	2	0	2	0	0	
	動物用医薬品 (4)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	
	器具・容器包装 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	その他 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
微生物・プリオン・自然毒 (56/68件)	細菌 (21件)	0	1	1	0	9	1	2	2	2	0	0	5	
	ウイルス (12)	2	1	1	4	1	0	1	0	0	0	2		
	原虫・寄生虫 (3)	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	プリオン (6)	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3		
	植物性自然毒 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	カビ毒(マイコトキシン) (7)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6		
	動物性自然毒 (1)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
その他 (6)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
新食品等 (8/7件)	新食品 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	GMO (5)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3		
	健康食品 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	アレルギー (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	クローン (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	放射線照射 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ナノテクノロジー (2)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
肥料・飼料等 (4/6件)	肥料 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	飼料 (4)	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0		
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他 (23/24件)	表示 (1件)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
	放射性物質 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	その他 (21)	1	3	0	2	2	1	2	0	1	0	9		
海外の食中毒 (0/0件)	細菌 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ウイルス (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
海外のリコール (0/0件)	化学物質 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	微生物 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	異物混入等 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	表示違反 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

※収集期間については、主たる期間をいう。

食品安全関係情報(8月31日～9月20日収集分 147件)のうち、主なものの紹介

(詳細及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください)

【化学物質】

- ・世界保健機関(WHO)、「鉛中毒症と健康」と題するファクトシートを発表
- ・米国食品医薬品庁(FDA)、コメ及びコメ製品 1,300 種中のヒ素に係るサンプリング結果を発表
- ・ニュージーランド第一次産業省(MPI)、生肉に用いられている亜硫酸塩の基準超過を対象に検査を行っていることを公表

【微生物・プリオン・自然毒】

- ・カナダ保健省(Health Canada)、ブリティッシュ・コロンビア州及びアルバータ州で発生した腸管出血性大腸菌 O157:H7 による食中毒情報を公表
- ・欧州疾病予防管理センター(ECDC)、欧州連合/欧州経済域内において 2006～2009 年に発生した 6 つの主要な食品及び水媒介感染症の調査報告書を公表
- ・英国食品基準庁(FSA)、カンピロバクター対策の新計画を発表
- ・米国疾病管理予防センター(CDC)、論文「2012 年 3～4 月ニューヨーク市の中国移民 2 人に発生した自家製発酵豆腐に関連するボツリヌス症」を紹介
- ・国際連合食糧農業機関(FAO)、鳥インフルエンザウイルスが再興する可能性があるかと警告
- ・欧州連合(EU)、イタリアにおける高病原性鳥インフルエンザ A(H7N7)に係る防疫措置を策定
- ・欧州疾病予防管理センター(ECDC)、イタリア、エミリア=ロマーニャ州の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ A(H7N7) 及び 3 人の養鶏場作業員の感染に関する疫学情報(2013 年 9 月)を公表
- ・フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)、セーヌ湾のホタテ貝で頻繁に観察された記憶喪失性貝毒(ドウモイ酸)の汚染に関するリスク管理制度改善についての意見書の抜粋を公表

【新食品等】

- ・欧州食品安全機関(EFSA)、遺伝子組換え植物由来食品・飼料の安全・栄養評価方針に係る調査報告書を公表
- ・国際連合食糧農業機関(FAO)、FAO/世界保健機関(WHO)の技術論文「食品及び農業部門におけるナノテクノロジーのリスク評価及びリスクマネジメントに関するイニシアチブ及び活動の最新状況」を公表

【その他】

- ・国際連合食糧農業機関(FAO)、ケニアで病害抵抗性小麦の品種が初めて登場した旨を公表
- ・米国食品安全検査局(FSIS)、中国の加工済み家きんの安全検査体制を米国と同等と認定・米国食品医薬品庁(FDA)、「外国政府向け情報: 制度認定(Systems Recognition)に係る FAQ」を発表

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○微生物・プリオン・自然毒

欧州疾病予防管理センター(ECDC)、欧州連合/欧州経済域内において2006～2009年に発生した6つの主要な食品及び水媒介感染症の調査報告書を公表

公表日：2013年9月9日 情報源：欧州疾病予防管理センター (ECDC)

<http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/food-and-waterborne-diseases-surveillance-report.pdf>

欧州疾病予防管理センター(ECDC)は9月9日、欧州連合/欧州経済(EU/EEA)域内において2006～2009年に発生した6つの主要な食品及び水媒介感染症の調査報告書を公表した。

本報告書は、EU加盟国及びEEA3か国(アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー)からの報告に基づき作成された6つの主要な食品及び水媒介感染症であるカンピロバクター症、志賀毒素/ベロ毒素産生性大腸菌(STEC/VTEC)感染症、サルモネラ症、細菌性赤痢、エルシニア症及びリステリア症並びに腸チフス、パラチフスに関するもの(報告数は実数)。

- ・2009年のカンピロバクター症の報告数は2006年と比べて13%増加し、201,605人であった。2007～2009年の患者の90%がEU/EEA域内で感染していた。
- ・2009年のSTEC/VTEC感染症の報告数は2006年と比べて9%増加し、3,698人であった。2007～2009年の患者の79%がEU/EEA域内で感染していた。
- ・サルモネラ症は2006～2009年の間に53,854人減少(減少率33%)し、2009年の報告数は109,893人であった。特に*Salmonella Enteritidis*感染症の報告数の減少は顕著で、4年間に44%減少した。しかしながら、サルモネラ属菌が原因の集団食中毒が数件発生している。2007～2009年のサルモネラ症患者の86%がEU/EEA域内で感染しており、域内には依然サルモネラ属菌がまん延していることが示唆された。
- ・細菌性赤痢の報告数は2007～2009年で13%減少し、2009年の報告数は7,621人であった。2007～2009年の症例の3分の2はEU/EEA域外からの輸入症例であった。
- ・2009年のエルシニア症の報告数は2006年と比べて16%減少し、7,638人であった。2007～2009年の患者の97%が国内で感染していた。ヒトでの最も一般的な血清型はO:3(90%以上)であった。
- ・リステリア症の報告数は、4年間で傾向に変化はなく、2009年の報告数は1,638人であった。患者のほぼ全員が国内で感染していた。全ての年齢層において最も一般的な血清型は4b及び1/2aであった。
- ・腸チフス(訳注:サルモネラ属菌の1種であるチフス菌が原因の感染症)の報告数は2008～2009年で傾向に変化はなく、患者数は630人であった。2009年のパラチフス(訳注:サルモネラ属菌の1種であるパラチフスA菌が原因の感染症)の報告数は微減し586人であった。腸チフス・パラチフスの原因の大半がEU/EEA域外への旅行と関係していた。
- ・患者致死率は、リステリア症を除く主な感染症では1%未満であった。リステリア症の2007～2009年における致死率は17～20%であった。

○関連情報(国内)

- ・厚生労働省：食中毒統計 <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/04.html#4-2>

年別原因別食中毒発生状況(患者数)

注：()内は死者数、リステリアはデータ無し

年	カンピロバクター・ ジェジュニ/コリ	腸管出血性大腸 菌(ベロ毒素産生)	サルモネラ属 菌	赤痢菌	エルシニア・エ ンテロコリチカ	リステリア	腸チフス	パラチフス
2006年	2,297	179	2,053 (1)	10	0	—	0	0
2007年	2,396	928	3,603	0	0	—	0	0
2008年	3,071	115	2,551	131	0	—	0	0
2009年	2,206	181	1,518	0	0	—	0	0

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciiis/>) をご覧下さい。